

進路だより

令和元年 7 月 18 日(木)

第 6 号

高浜市立高浜中学校

進路担当 岩月 晃

先日、愛知県教育委員会から、今年度の公立入試における「配点比率」が発表されました。「配点比率」とはそもそも何なのか、という疑問をもつ人がほとんどだと思います。そのため、まずは、公立高校の一般受検における、合格者の決定方法について説明をしていきましょう。

公立高校の合格者を決める基準となるものは3つあります。1つ目は「評定」です。中学校の各教科の評定合計（最大 45）を2倍した評定得点（最大 90）をもとに受検生の順位を決めます。2つ目は、当日の「学力検査の点数」です。1つの教科ごとに22点満点の5教科分として、110点満点の学力得点をもとに順位を決めます。そして3つ目は「面接」です。入試2日目に行われる面接の様子を加味して、最終的に可否が決定されていきます。

定員 300 人の学校に 400 人の受検者がいた場合を例として考えます。まず、「評定得点の順位」と「学力得点の順位」の両方が、定員に入っている受検者を「A」とし、その中で順位が決まります。（「A」に当てはまる人数は、定員のおよそ6割程度です。すなわち、定員が300人であれば、180人程度が「A」になることになります。）

その後、評定得点と学力得点に、それぞれの学校ごとに決められた割合をかけて計算した得点で、残りの受検者（「B」）の順位を決めていきます。この割合が「配点比率」と呼ばれるものであり、そこには次の三種類あります。

I 型・・・評定得点、学力得点をそのまま合計し、200 点満点として順位を決める方法

II 型・・・評定得点を 1.5 倍し、学力得点を加えた点数で順位を決める方法（評定重視）

III 型・・・評定得点に、1.5 倍にした学力得点を加えた点数で順位を決める方法（学力検査重視）

この3つのうち、学校ごとに決められた方法で得点が計算されて、「B」の中での順位が決まります。（先に決まった「A」以外の残りの 220 人程度が、この方法によって順位が決まります。）その後、希望順位や相手校の合格状況、面接の結果などによって、「A」「B」の順で合格者が決まります。

みなさんが受検する学校が I 型、II 型、III 型のどの学校になっているかを紹介しておきます。同じ学校でも、学科によって違う場合もあるので気をつけてください。

I 型	安城：生活文化科、知立、碧南、幸田、刈谷工業、東浦、大府：生活文化科、桃陵、旭丘：美術科、名古屋市立工芸、吉良：普通科
II 型	高浜、安城農林、安城南、碧南工業、岩津：調理国際科、三好：スポーツ科学科、吉良：生活文化科
III 型	愛知総合工科、豊田南、岡崎、刈谷、刈谷北、安城：普通科、知立東、千種：国際教養科、西尾、安城東、鶴城丘

※ここでは、高中生が過去受検した高校をもとに紹介しています。

1	評定の順位	300	400
学力検査の順位	評定・学力ともに定員内 → 「A」	II 型 ・・・評定重視	
300	III 型 ・・・学力重視		
400			